

# 東京都区部における蓋掛河川再生のための条件に関する研究

河川再生 蓋掛河川 親水空間

○準会員 佐藤 円佳\*1 発表部門：環境工学  
正会員 柳澤 聡子\*2 細分類：都市設備・  
同 高橋 信之\*3 環境管理  
同 尾島 俊雄\*4

## 1. はじめに

### 1.1 研究目的

戦後、東京の急速な都市化と治水・下水道事業展開に伴い、多くの都市河川が廃止・転用されてきたが、現在は下水道普及率も高まったため、これらの河川は再生することが可能となった。また近年、都市環境改善のため親水空間創出の動きも高まっている。

そこで本論文では、蓋掛河川再生の妨げとなっている要因の調査をし、これらをもとにした再生のための条件を提案し、河川再生の可能性を考察する。

### 1.2 蓋掛河川の定義

現場打ちコンクリート或いはボックスカルバート工法により、河道幅員を部分的または全体的に覆蓋化した構造形態の流路部分である。図1に蓋掛河川の断面イメージを示す。また暗渠状・法定河川、暗渠状・公共溝渠も含む。

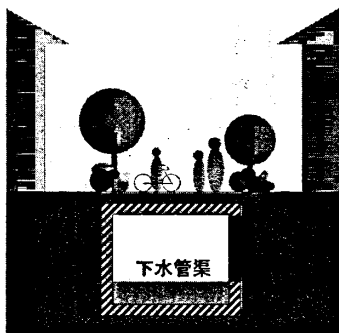


図1 蓋掛部分断面図例

## 2. 蓋掛河川の現状調査

### 2.1 上部空間の現状

上部空間について現地調査を行った。上部空間は主に道路・宅地67%、緑道・公園（水路未再生）27%、緑道・公園（水路再生済み）6%に分けられる。図2にその分布を示す。

### 2.2 下部空間の現状

下部空間について下水道台帳で調査を行った。下部空間は合流式下水渠79.4%、水路（暗渠）20.2%、分流式下水渠0.4%に分けられる。図3にその分布を示す。

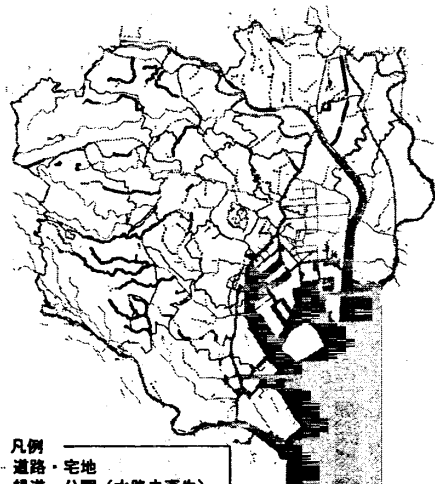


図2 蓋掛河川上部空間現状

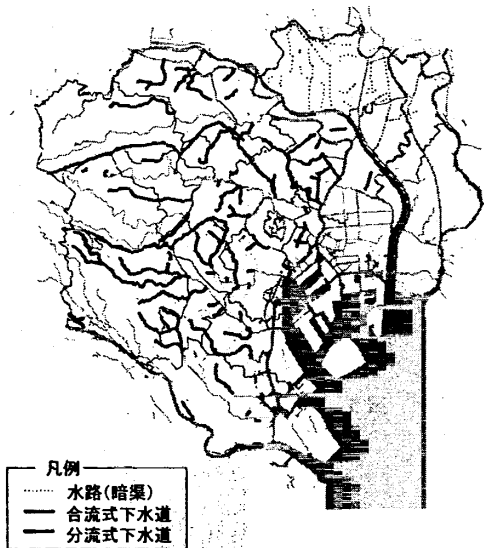


図3 蓋掛河川下部空間現状